

イエスの奇跡 メシアとしての証拠

聖書通信 30号

人類を救出するメシアが登場することを、聖書は人類史の初期から約束していました。

例えば メシアに至る家系を明らかにし、どこで生まれ、いつ表舞台に登場するかを予告していました。

聖書で予告された時間通りに、イエスは歴史の表舞台に登場しました。確かにイエスはメシアとしての資格を備えていました。

しかしそれだけでイエスがメシアと証明されたわけではありません。メシアとして誰もが納得する証拠が必要でした。その一つの証拠がイエスがなされた数々の奇跡です。

今日はその奇跡の数々とその意義について考えてみましょう。

最初の奇跡 水を葡萄酒に変える

イエスが最初に行われた奇跡はカナで執り行われた結婚式で起きました。親族の結婚式であったと思われませんが、母マリアとともに出席していました。披露宴もたけなわとなっていた時、思わぬ事態に直面します。客に出す葡萄酒が足りなくなってきたのです。それは新郎新婦にとって恥ずかしいことでした。マリアはイエスに相談します。イエスは水瓶に水を満たすように命じ、それをくんで客に出すように指示します。客はそれを飲んだところ上等の葡萄酒で、「今までとっておいたのですか」と感嘆します。



病気を治す

イエスは様々な病気を治しました。例えば、中風で寝たきりになっていた人がいました。友人達が寝床のままその人をイエスの所に連れて行きます。しかしイエスの周りに大勢の人がいたので近づけません。彼らは屋根に上り、屋根をはがして中風の人を寝床のままつり降ろします。屋根がはがされ病人がつり降ろされてきたのですから、イエスはきっと驚いたことでしょう。しかしイエスは怒ることもなく、その人の罪を許し、「立ち上がって歩きなさい」と命じると、その中風で何年も寝たきりになっていた人は起き上がります。

12年もの長きにわたって血の流出に悩む女性がいました。様々な治療を試しましたがいっこうに良くなりませんでした。その女性はイエスに信仰を働かせ、「裾に触るだけで良くなる」と信じイエスの裾に触ります。その結果女性は癒されます。イエスはその時自分の力が出ていったことを知ります。その女性に向かって優しく語りかけ「安心なさい。あなたが良くなったのは信仰があったからです。」と言われます。

盲目の人を癒やす

生まれつき盲目の人がいました。その人は物乞いをして生計を立てていましたが、イエスに見いだされ盲目の状態から解放されます。パリサイ人達はイエスが起こした奇跡が信じられません。幾度もその盲目であった人に癒やされた方法を尋ねます。盲目の人は「生まれつき盲目の人を癒やすことなど普通の人には出来ません」と語りパリサイ人を辱めます。

悪霊を追い出す

悪霊に取り憑かれた人々もいやしました。たとえばガリラヤ湖のほとりの町ゲラサで非常に凶暴な男がありました。イエスはその人に近づき、その人に取り憑いている悪霊達を追い出しました。しかも取り憑いていた悪霊は一人ではなく「軍団」とも呼ぶべき集団でした。その人は正気に戻りその地でイエスの偉業を伝えることになりました。

食事を与える

イエスは度々山上で教えを与えました。ある時は人里離れた場所で長時間教えられました。ある時は5000人ほどの人に食事を与えました。次のように描写されています。

そこには約5000人の男性がいたのである。しかしイエスは弟子たちに、「50人ぐらいつつのグループにして座らせなさい」と言った。弟子たちはその通りにし、全員を座らせた。イエスは5つのパンと2匹の魚を取り、天を見上げて祈ってから、それらを割って弟子たちに渡し始めた。群衆に配らせるためである。こうして皆が食べて満足した。余りを拾うと、かけらは籠12個分になった。
(ルカ 9:14-17)

嵐を静める

ガリラヤ湖は時として嵐に見舞われる時があります。イエスと弟子たちが船に乗っている時、このときもそうで突如嵐が襲ってきます。船は木の葉のように揺れ沈没するかもしれません。しかしイエスは疲れたのでしょう、深い眠りについています。弟子たちはイエスを起こし助けてくださいと懇願します。イエスは立ち上がり嵐に向かって「静まれ 静まれ」と命じます。すると嵐は静まり、平穏な海に戻ります。弟子たちは「嵐さえも静めることができるのだ」と驚きます。



死者を復活させる

イエスは死者を少なくとも3度復活させています。

ナインで起きた出来事について聖書は次のように述べています。

町の門に近づくと、死人が運び出されてくるところだった。それはある母親の一人息子で、しかも母親はやもめだった。町のかなり多くの人と一緒にいた。主イエスはその母親を見ると、かわいそうに思い、「泣くことはありません」と言った。そして、遺体を載せた台に近づいて触った。担いでいた人たちは立ち止まった。イエスは言った。「若者よ、さあ、起き上がりなさい！」すると死人は体を起こして話し始め、イエスは息子を母親に渡した。この時、皆は畏れを抱き、神をたたえ始めて、「偉大な預言者が私たちの間に現れた」、「神はご自分の民に注意を向けてくださった」と言った。イエスに関するこの話はユダヤ全土と周囲の全地方に広まった。（ルカ 7:12-17）

またイエスの友人ラザロを甦らせていますが、ラザロは死後4日もたっていたのです。

奇跡の意味と信じるべき理由

このようにイエスは自分が神に選ばれたメシアであることを奇跡を通して明らかにしました。

ある人にとって「奇跡は信じられない」と感じるかもしれませんが、しかし私たちはいつも奇跡を見ているのです。

どういふことでしょうか。

この宇宙の誕生、地球の存在、生命の誕生 全ては奇跡以上の奇跡とも言うべきものです。

例えば宇宙が偶然に誕生する確率は10の500乗分の1より小さいと言われていています。

サイコロを投げ「6」が500回続くと言うことがあるのでしょうか。あり得ません。それよりも宇宙が出来た確率ははるかに小さいのです。

背後に偉大な神の働きがあります。

ではイエスの背後にも同様な力が働きました。そうではないでしょうか。



宇宙の誕生 奇跡以上の奇跡

イエスがメシアとして治める千年王国では奇跡のような社会が実現します。そこでは病気が癒やされ、戦争もなく平和な社会が実現し、死者の復活があり、遂に死さえ滅ぼされるのです。

神がアダムとエバに与えたエデンの園が甦るのです。回り道をした遠い道のりでしたが、当初の目的が達成されるのです。私たちはそのような社会を待ち望むことができます。